

2012 (平成24年) 年頭所感



代表取締役社長

中西久芳

新年明けましておめでとうございます

2012年(平成24年)の年頭にあたり、従業員各位を始め、御家族の皆様におかれましては、安全、安心で幸福な家庭と、新たな希望を胸に新年を迎えられたことと、お慶び申し上げます。併せて関係各位の皆様には、本年も御隆盛と御多幸を心よりお祈り申し上げます。

●昨年の世界は各地で色々な出来事が起きました。中東ではリビアを代表する民主化への国民決起による政変、欧州ではギリシャに端を発したユーロ圏の債務危機問題、ドル安円高による我国の産業はどうなるか、タイ国の大洪水被害、等々。

日本では、当社の仙台工場も被害を受けましたが、戦後最大の国難と言われ、1000年に一度と言われる東日本大震災とこれによる福島原発事故、追い討ちをかける様な台風12号、15号による甚大な被害が重なり、災害列島日本の様相でした。この災害からの復興には大変な期間と費用が掛かりますが、日本国民は基より、多くの国からの義援金、ボランティアを頂き、復興増税も決まり、これだけ国民の熱意があれば、見る間に、新しい形の災害に強い世界の手本となる復興

が出来き、国難を乗り越えられると確信しています。又 当社も復興は基より「国土の安心、安全な整備」の一助に努めることが使命です。

●今年、イギリスで開催される四年に一度の楽しいオリンピックの年ですが、世界の主要国では指導者の交代、先程述べました各国での問題解決、日本では復旧復興と原発への対応、TPP、円高是正、消費税、普天間基地問題、等々、出口の見えない政治、経済課題が山積し平穩無事とは言えない「新年」を迎えたようです。

我国は、兎に角、世界に伍した「強力な政治力」と円高を克服できる「技術立国日本の経済力」を築く年になることを念じます。

●さて、このような状況下で当業界は依然としてトンネルの真ん中に止まっているような年明けです。当社の主戦場とする公共事業関連の発注は、震災の影響もあり、遅れに遅れていましたが、第3次補正予算も決まり執行されてきました、これからの正念場です。

新しい年の門出として、私から、全社員への第一声は、第132期残る3ヶ月で一気に挽回に向け、東西両支社が良きライバルとして競争し、「企業は数字なり」を頭に刻み込み、Challenge「New Rebirth」第132期下半期の具体的行動を遂行し、掲げた計画数値に向かって行動し計画達成を願うことです。

●次に、平成24年度は震災復興がらみの公共事業を軸とした動きになりますが、「国民の安心、安全な国土整備」を考えますと、必ず地域に密着した事業が静かに動くと思います。各事業所は惑わされず地道に地域密着型の営業活動をすべきです。又これをする事が生き残りの原点です。

そこで、Challenge「New Rebirth」第2次中期経営3ヶ年計画の最終年度となる今年度の数値計画は第132期計画、実績を見据え経営会議にて決定しますが「方針」「具体的行動」は下記のとおりです。今年も再確認と決意を願う次第です。

Challenge「New Rebirth」 第二次中期経営3ヶ年計画

方針

- ①自社製品の売上げは年度毎に決めた数値を突破する。
- ②新製品、新工法の更なる開発の早さと異業種との連携。
- ③今まで蓄積した当社独自技術を海外展開できるか挑戦をする。
- ④組織のスリム化と財務力の確固たる基盤の継続。

具体的行動

営業本部、東西両支社販売部は販売強化策を具体的に掲げ、他社との妥協は許さず、自社製品の売上げを伸ばす。

*「TB(タッチボンド)工法」「ECO-CL工法」で徹底した差別化販売をし、ボックス関連製品の売上げを伸ばす。

「売れる商品開発、技術開発のスピード化」と「技術者のレベルアップ」

*「TB(タッチボンド)工法」「ECO-CL工法」のさらなる改良と実績をあげ、普及活動をバックアップする。

*各種資格者を計画的に増す。(競争と勉強)

*新製品の具体的な提案。

工場は損をしない運営に知恵を絞る

*損益分岐点の把握と、徹底した工場管理。

*期末在庫を10億円以内とする。

*技術、技能の伝承と改善に取り組む。

経理、技術部は東西一本化によるレベルアップと合理化の追求により、潜在利益を生み出す。

海外展開への継続

●今年はこの方針、行動と共有し下記四項目に取り組む覚悟であります。

①公共事業の縮減から発注量の不足する上半期は

業績に苦しみ下半期で何とか挽回するという綱渡りの体質を余儀なくしてきましたが、不需要期の業績改善を過去に囚われず打破する施策を実行する決意です。全社員の協力を願います。

②販売力の強化を掲げ、新商品、新工法の投入をしてきたが公共事業の縮減から大きな効果が見られない。再度販売のあり方を見直し、仕事のあるところに販売力を集中することを基本とした見直しを実施したい。(東日本大震災関連プロジェクトチームの具体的取組と成果を講ずる。)

③新商品、新工法、新技術の開発は「TB工法」のようなヒットを生んだが、ボックスカルバートに囚われず、新しい事業として育成、発展可能な技術開発に向け、新しい着目で将来への研究、開発に取り組む。

④これからの当社を担う若き管理職、将来の経営者の育成は当社将来の発展に欠かせない重要事項であり、管理者、経営者は多能工でなければならない。この為にも部署を越えた適材適所での教育をし、人材育成に努める。

以上、この他にも経営課題は多くありますが、年頭に当たり、所感を申し述べました。当社を愛し、当社で生きる社員の皆さんは、御理解と自覚を願い、この山積した課題を乗り越えてくれることを信じています。

「企業は人なり、企業は数字なり」です。これを乗り越えると明るい光が射してきます。新年を迎え、会社の発展と皆様方の御健康と安全、並びに御家族の御多幸を祈念いたしまして、私の年頭の挨拶と致します。

旭コンクリート工業株式会社

平成24年1月4日